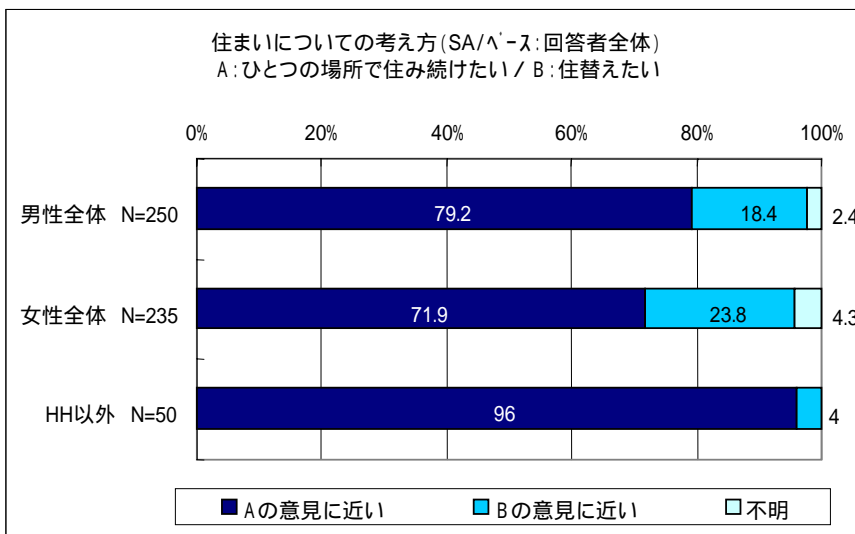


定住志向は、住み替え志向を大きく上回る。

- ヘーベル居住者<男性>の8割、<女性>の7割が「ひとつの場所で住み続けたい」と回答しており、「住み替え派」を大きく上回っている。
- しかし、一般対象者では、「定住派」は実に96%であり、「住み替え派」はわずかに4%である。これに比べると、ヘーベル居住者には住み替え派が多く存在すると言えよう。
- 男女ともに若い年代ほど「住み替え派」が増加する。55歳未満では、「住み替え派」が3割を超えている。



理想の住宅計画の理由

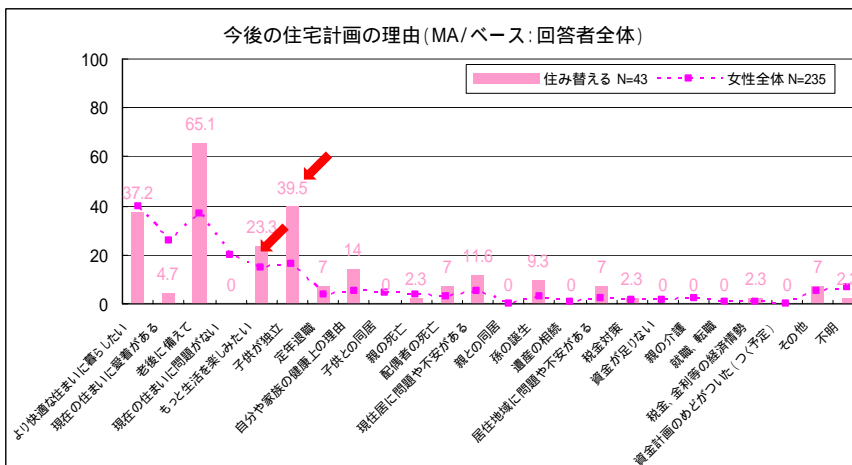
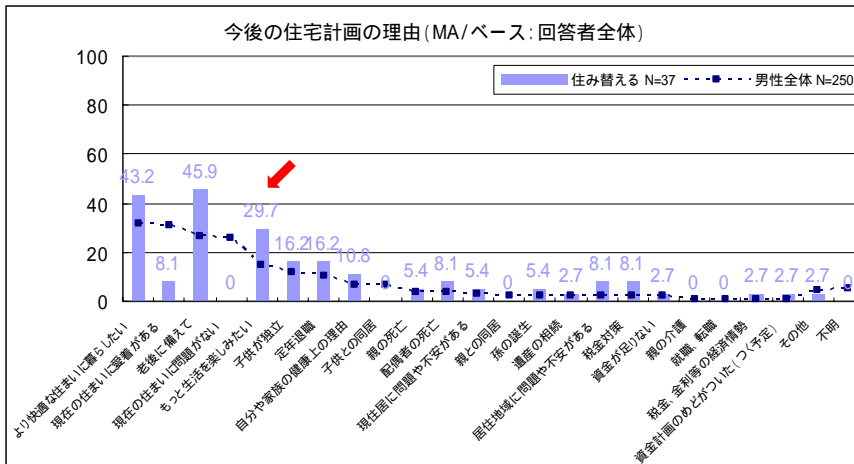
住み替え希望者は、生活を楽しむことに積極的。

□今後の住宅計画として「住み替える」と回答した人（持家マンション、持家一戸建て、賃貸マンション、賃貸一戸建て、高齢者施設の合算）は、「より快適な住まいに暮らしたい」「老後に備えて」が理由として上位にある。

□「もっと生活を楽しみたい」が男性で29.7%、女性で23.3%である。これは「増改築希望」「現在のまま住み続ける」には見られない特徴的な傾向である。

□女性の場合、その住み替え動機に「子供の独立」を契機に、より生活を楽しみたい（39.5%）という積極的な姿勢が見られる。

住み替え希望者

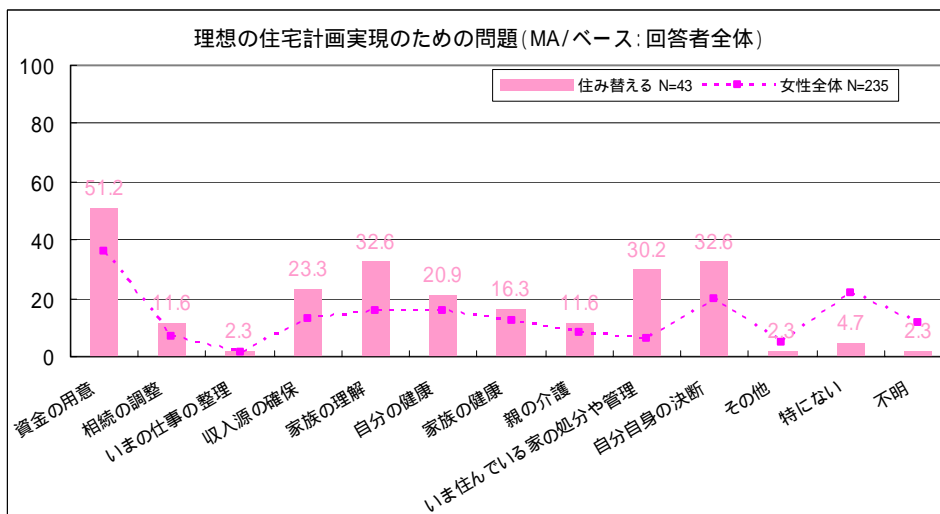
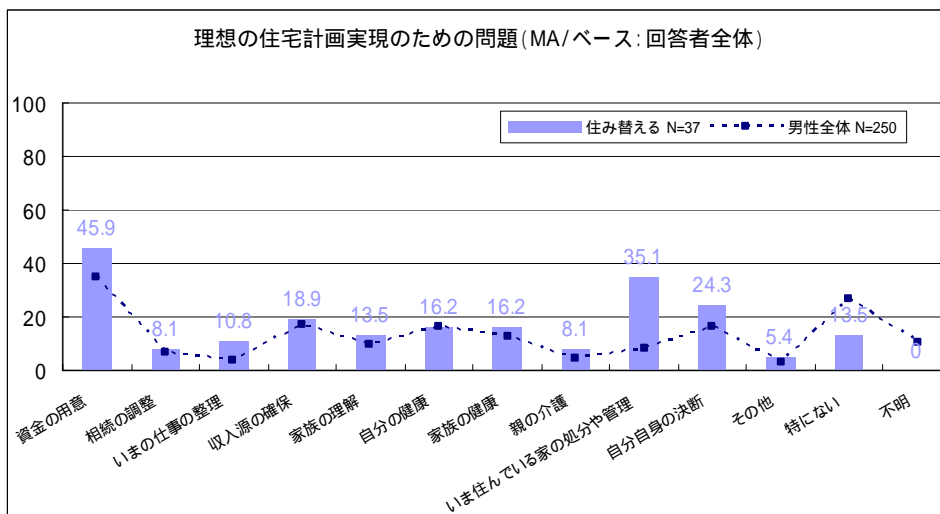


理想の住宅計画実現のための問題

住み替え希望者にとって、資金問題とともに現住居の処分や管理が大きな問題。

- 住み替え希望者の場合、解決すべき問題は、「資金の用意」とともに、「いま住んでいる家の処分や管理」である。また、「自分自身の決断」も大きな要素として挙げられている。
- 住み替えを希望する女性の場合は、以上に加え、「家族の理解」が必要と考える人が男性よりも多い。

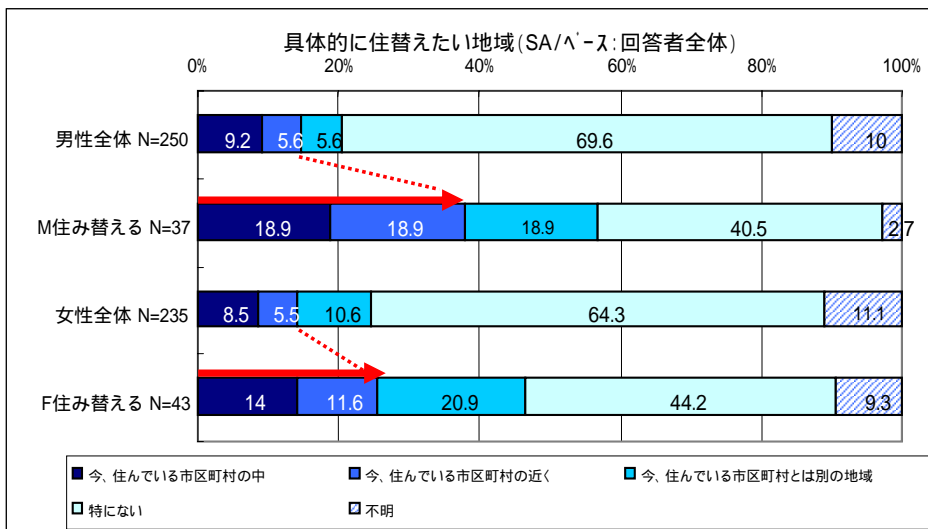
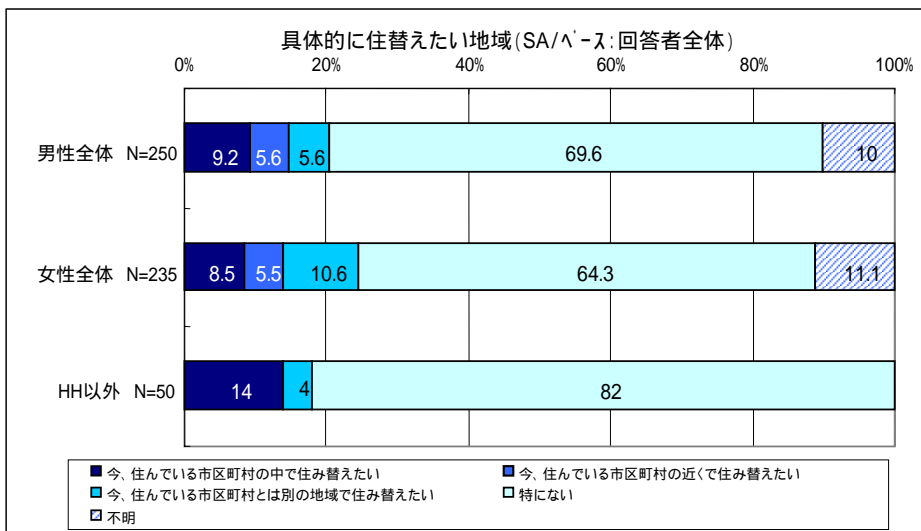
住み替え希望者



具体的に住替えたい地域

住み替え希望者は、住み慣れた地域から離れない住み替えを希望している。

- 「住み替え希望者」は、男女ともに「今住んでいる市区町村の中」「今住んでいる市区町村の近く」と回答した割合が高い。
- 住み替えを希望する人は、これまで住みなれた地域から離れたくないと考えている。住み替え先の地域に対し要求することも多い。特に、生活の利便性は最重要視されている。住み慣れた地域の中で、より利便性の高い場所への住み替えを検討する人は確実に存在している。
- しかし、住み替え希望者であっても、選択肢が具体的にイメージできないという実態もみられる。



自宅を他人に貸すことへの抵抗感や不安

□自宅を他人に貸すことへの抵抗感は強い。「感じる」「まあ感じる」を合算して、男性は79.2%、女性 は81.7%と、8割程度は抵抗感や不安を感じるようだ。

□具体的な懸念事項として、「店子とのトラブル」「自分が戻りたいときに退去してもらえるか」が 男女ともに 上位に挙げられている。

